

2026 年度春学期東京学芸大学国際交流/留学生センター

「日本理解」「多文化共修科目」

時間割・授業概要

2026/03/23 現在

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
I 8:30 - 10:10	多文化共修科目 C 世界の言語と文化 (伊能裕晃) [N313]				日本理解 C 人文 (斎藤敬太) [N107]
II 10:20 - 12:00					
III 12:50 - 14:30		日本理解 G 自然 (澤田康徳) [N107]			
IV 14:40 - 16:20				多文化共修科目 E (許夏玲) [N313]	日本理解 A 教育 (外池彩萌) [S105]
V 16:30 - 18:10		日本理解 E 人文 (高崎恵) [S107]		多文化共修科目 A (岡 智之) [N313]	

- \* 「日本理解」：留学生のみを対象とした科目で、日本の文化や社会について、留学生同士で議論したり、実技や見学などを行ったりしながら、多角的に学ぶことを目的としています。
- \* 「多文化共修科目」：学部の正規生（主に日本人学生）が履修できるCA科目としても同時開設されており、留学生と日本人学生が共に議論しながら、世界の文化や社会についての学びを深めることを目的としています。
- \* 日本語レベルについて：いずれの科目も、原則として日本語プレースメントテストの結果がレベル1と2の学生を対象としますが、レベル3の学生についても授業によっては受講が可能です。初回の授業で担当教員に確認してください。

授業科目名	日本理解 A : 教育
担当教員	外池彩萌 (とのいけ あきほ)
ねらいと目標	この科目では、主に日本ではどのような学校教育が展開されているのかを学習することで、日本に関する理解を深めます。また様々な文化的多様性をもった学生同士が、アクティビティやグループワークを通じて、コミュニケーション・スタイルについて探求しながら、個人のこれまでの教育経験を共有します。
内容	本授業では、小講義、グループワーク（もしくはペアワーク）を中心としたアクティビティで構成されています。できる限り、授業期間中にいろいろな学生と話をすることで、自分のコミュニケーションのスタイル、グループワークでの自分の持ち味に気づき、今後の学生生活に活かしていきます。
テキスト	特にありません。Webclassにて資料配布を行います。
参考文献	授業内もしくはwebclassで紹介します。
成績評価法	毎回の出席：40%、グループ内発表：30%、最終レポート：30%
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 日本の学校教育体系</li> <li>3. 教えと学び—教育に潜むジェンダー問題</li> <li>4. 学習指導要領—カリキュラム・スタンダードの是非</li> <li>5. 日本の学校教育の変遷(1)</li> <li>6. 日本の学校教育の変遷(2)</li> <li>7. 日本の学校教育の変遷(3)</li> <li>8. カリキュラムの類型—教育は万能なのか</li> <li>9. 学力と評価</li> <li>10. 教科書はどうつくられるのか</li> <li>11. 総合的な学習の時間とは何か—平和教育と切実性問題</li> <li>12. 特別活動とは何か—教育の暴力性と可能性</li> <li>13. グループワーク</li> <li>14. 本講義のまとめ</li> </ol> <p>※講義の進行や受講生の関心により内容は変動する可能性があります。</p>
授業時間外における学習方法	授業時間外では、グループワークの準備や課題資料を事前に読んで、質問やコメントを考えた上で授業に臨んでください。
授業のキーワード	協同学習、国際交流、コミュニケーション、ディスカッション
受講補足（履修制限など）	● 日本語だけで授業をやるため、原則として、プレースメントテストでレベル1, 2の学生に限定します。
学生へのメッセージ	

授業科目名	日本理解 C : 人文
担当教員	斎藤 敬太 (さいとう けいた)
ねらいと目標	この授業は、当たり前のように使っている「ことば」の様々な姿について知ること、今まで以上に多様性について考えられるようになることを目的とします。
内容	日本では、日本語以外にも様々なことばが使われています。この授業では、日本で使われている日本語（共通語、方言）、外国語などについて、身近にみられる看板（「言語景観」といいます）から見ていきます。みなさんのまわりにある看板をよく見ることで、日本語の様々な表現、使われ方、方言などが分かります。そして、どのような日本語あるいは外国語が、誰のために、なぜ書かれているのかが分かります。日本だけではなく海外の看板に書いてある日本語についても紹介します。各回では、テーマに合わせた課題を出し、それについての発表やディスカッションなどを予定しています。
テキスト	特にありません。
参考文献	ロング, ダニエル, 斎藤敬太『言語景観から考える日本の言語環境—方言・多言語・日本語教育—』春風社, 2022 庄司博史, P・バックハウス, F・クルマス編著『日本の言語景観』三元社, 2009 内山純蔵監修, 中井精一, ダニエル・ロング編『世界の言語景観 日本の言語景観—景色のなかのことば—』桂書房, 2011 本田弘之, 岩田一成, 倉林秀男『街の公共サインを点検する—外国人にはどう見えるか—』大修館書店, 2017 磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店, 2020
成績評価法	平常点・授業態度 40%、課題 20%、レポート 40%
授業スケジュール	1.オリエンテーション 2.言語景観調査 3.若者言葉、俗語 4.キャラクターのことば（役割語） 5.方言 6.語用論 7.子どものための言語景観 8.日本に住んでいる外国人のための日本語 9.~10.日本に住んでいる外国人のための外国語 11.日本語と外国語の接触 12.観光客のための外国語 13.海外で見られる日本語 14.まとめ (授業スケジュールは変更することがあります)
授業時間外における学習方法	普段の生活で、看板や表示に注意してみてください。また、自分たちが使っていることば、勉強している日本語について、考えてみてください。
授業のキーワード	社会言語学、言語景観、在日外国人、言語サービス、観光資源としての言語、言語接触
受講補足 (履修制限など)	1回 100分、14週授業です。
学生へのメッセージ	

授業科目名	日本理解 E：人文
担当教員	高崎 恵（たかさき めぐみ）
ねらいと目標	日本の宗教についての基礎知識を学び、宗教が日本の社会や文化や政治とどのように関わってきたかを考えます。
内容	<p>日本にはさまざまな宗教がありますが、たがいに影響をおよぼしあって、日本的な宗教世界を作っています。神道（しんとう）や民間信仰（みんかんしんこう）、仏教（ぶつきょう）や儒教（じゅきょう）や道教（どうきょう）はもちろん、キリスト教や新宗教も重要です。近年はイスラームやヒンドゥー教も存在感を増しています。</p> <p>また、ある宗教の信者（しんじゃ）でなくても、年中行事（ねんちゅうぎょうじ）や通過儀礼（つうかぎれい）、観光やアニメやゲーム、占い（うらな）い）やおまじないなどを通して、宗教的なことがらは人びとの生活に結びついています。</p> <p>この授業では、宗教が日本社会の文化や政治とどのようにかかわってきたかを学び、ディスカッションを通して理解を深めます。また、受講生の皆さんが、日本でくらす中で関心を持った宗教にかかわることがらについて、個人あるいは少人数のグループで研究発表をしていただきます。</p>
テキスト	授業時に資料を配布します。
参考文献	授業のなかで紹介します。
成績評価法	<p>授業に対するアクティブな参加 60%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッションへの積極的な発言を期待します。</li> <li>・積極的な発言を期待します。</li> </ul> <p>個別研究 40%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマは現代日本の宗教や宗教的なことがらです。</li> <li>・皆さんご自身の日本での体験から、テーマを選んでください。</li> <li>・研究内容を授業中に発表します（質疑応答を含め 20 分程度）</li> </ul>
授業スケジュール	<p>下記の項目をとりあげる予定です。</p> <p>受講生の人数や関心に応じて適宜変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「宗教」とは何か？</li> <li>・現代日本人の宗教意識／現代日本の宗教行動</li> <li>・宗教の歴史：文化や政治との関係に注目して</li> <li>・日常の中の宗教：伝統行事／観光／ポップカルチャー／死後の世界</li> <li>・死や災害（さいがい）と宗教</li> <li>・研究発表</li> </ul>
授業時間外における学習方法	身の回りにある宗教的な事物や行事を発見して、それが現代の日本人の生活にどのように結びついているのか考えてみてください。
授業のキーワード	文化、伝統、政治、宗教
受講補足（履修制限など）	特になし。
学生へのメッセージ	文化遺産（ぶんかいさん）や文化財（ぶんかざい）と呼ばれるものの中には、宗教と関係の深いものがたくさんあります。宗教に関する基礎知識を身につけると、観光地の体験がより充実し、より深く考えることができるようになります。このクラスを通じて、日本の文化や社会を知的に楽しんでもらえたらうれしいです。

授業科目名	日本理解G：自然
担当教員	澤田 康徳（さわだ やすのり）
ねらいと目標	日本の自然環境に関する地域差を理解し，世界と日本の自然と文化や社会のつながりの違いを説明できるようにします。
内容	日本は南北（なんぼく）に大きくひろがり，日本海側と太平洋側でも環境は違います。環境に関する考え方や捉え方（とらえかた）は，場所や発達段階（はったつだんかい）によっても違います。日本の自然環境と人々の環境の捉え方を理解します。
テキスト	特に指定しません。
参考文献	授業で紹介します。
成績評価法	授業の復習と感想 60%（毎行います） 発表 40%（20分程度×1回）
授業スケジュール	講義 日本ひろがり 日本自然環境 日本社会・文化環境 世界の中の日本  ：自然と人間との関係を探求（たんきゅう）するうえで，自然環境の理解は重要です。本講義では，自然は人間生活と密接に関わっているという認識に立って，環境を捉え（とらえ）ます。近年は，気候変動（きこうへんどう）と人間活動との関係に着目されることが多いです。その際に必要な，広域（こういき），地球規模（ちきゅうきぼ）で日本を捉える視点と，自分 をとりまく身近な範囲から徐々に空間を広げて日本を捉える視点を養います。発表の内容は「私の出身地と日本の自然の違い」
授業時間外における学習方法	身の回りにある自然に関心を持ち，授業で学習した内容と照らし合わせたりします。
授業のキーワード	自然，気候，認識，環境，日本
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	頭の中で，日本中を旅行し，バーチャルな自然体験をしましょう。

授業科目名	<b>多文化共修科目 A : 多文化社会の課題解決プロジェクト</b>
担当教員	岡 智之 (おか ともゆき)
ねらいと目標	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 A「多文化社会の課題解決プロジェクト」では、多文化社会に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。
内容	多文化社会となりつつある日本には様々な課題があります。在日コリアン、外国人労働者、難民、外国につながる子どもの教育などの在日外国人問題、沖縄やアイヌなどの国内での民族問題のほかにも、セクシュアルマイノリティなどの問題も含め、広く多様性理解の課題としてとらえ、その課題に対して、私たちが何ができるかを一緒に考えていきます。課題解決はすぐにできるものではありませんが、それに向けて、まず知ること、理解することが必要です。さらに当事者の話を聞いたり、現場におもむいたり、またなんらかの発信をすることも課題解決に向けた活動の一つです。この授業では、個別に諸課題を学ぶとともに、課外活動やゲストトークを通して、体験したり当事者に話を聞く機会をたくさん設けています。学生は、自分のテーマを決め、テーマがつながる人とグループでプロジェクトを作って、発表をし、最後にレポートとしてまとめます。課外活動として国際交流合宿、朝鮮大学校訪問、クルド日本語教室見学などを予定しています。
テキスト	特に定めません。
参考文献	有田佳代子他編著『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社, 2018 『マンガ・クラスメイトは外国人・課題編』明石書店、2020
成績評価法	平常点 30% (授業の最後にコメント用紙提出)、課外活動及びフィールドワーク 5% (感想文を含む)、小レポート 5%、最終発表 30%、最終レポート 30% (最終レポートは A4 用紙 3 枚程度、3000 字以上は書くこと。)
授業スケジュール	1. オリエンテーション 2. 在日外国人問題 3. 在日コリアン問題 4. 難民問題 5. 沖縄基地問題、6. アイヌ・先住民問題 7. 在日外国人・難民問題 (ゲストトーク) 8. LGBT (ゲストトーク) 9. 前半振り返りとグループづくり、プロジェクト構想 10 - 13 最終発表①②③④ 14. まとめ
授業時間外における学習方法	学内や地域の多文化共生に貢献するためのプロジェクトなので積極的に課外活動に参加してください。授業外の調査やグループワークもあります。
授業のキーワード	多様性理解、多文化共生、プロジェクトワーク
受講補足 (履修制限など)	日本語だけで授業をやるため、原則として、プレースメントテストでレベル 1, 2 の学生に限定します。
学生へのメッセージ	日本人学生と積極的に交流したい学生を歓迎します。

授業科目名	多文化共修科目 C：世界の言語と文化
担当教員	伊能裕晃 (いのう ひろあき)
ねらいと目標	世界の言語と、その言語と深く関わる文化について、様々な言語的背景を持つ学生（日本人学生、外国人留学生）と交流しながら学んでいきます。互いの議論や協働学習を通して、異文化コミュニケーション、外国語学習、外国語教育等の基礎となる、言語と文化を反省的に捉える力を養うことをこの授業の目標としたいと思います。
内容	自らが使用している／学習している日本語を一つの外国語と見なし、様々な言語と比較しながら、その特徴と世界の言語との違いを考えていきます。音声、表記、語彙、文法、コミュニケーション等について、毎回、グループに分かれて、具体的に言語を分析、考察する課題を行い、討論の中から気づいたことを発表してもらいます。学期の最後に、自分の学習したことのない言語を一つ選び、日本語との違いを分析して、プレゼンテーションを行い、それをまとめたレポートを出す課題があります。
テキスト	特になし。
参考文献	必要に応じて、教室で紹介します。
成績評価法	授業への参加度 40%、授業中の課題 30%、レポート 30%
授業スケジュール	全体的なオリエンテーションの後、日本語と世界の言語の音声、表記、語彙、文法、コミュニケーション等について、毎回、トピックを一つ程度、取り上げ、授業を行います。 詳細な予定は、学期開始後、履修者の言語的な背景や興味関心などを踏まえて変更される場合があります。 1. オリエンテーション、多文化共修とは？ 2. 世界の言語の語彙 3. 世界の言語の語彙と異文化理解 4. 世界の言語の語彙と思考 5. 世界の言語の外来語、外行語 6. 世界の言語の家族 7. 国際言語学オリンピックの世界 8. 世界の言語の文字 9. 世界の言語の発表準備 10. 世界の言語の影響力 11. 世界の言語の類型論 12. 世界の言語の発音 13. 調査発表会（1） 14. 調査発表会（2）
授業時間外における学習方法	自分が使用している／学習している言語を使って、普段自分がどのようにコミュニケーションをしているかを振り返る。各国語の初級者向けの教材を読んでみる。
授業のキーワード	言語、文化、多文化共修、多文化共生、異文化コミュニケーション、グループ学習、発表会、ディスカッション、国際交流、
受講補足（履修制限など）	（1）教室の収容人数に対して、履修者の人数が多い場合は、人数制限を行います。 （2）日本語だけで授業を行うため、外国人留学生は、原則として、プレースメントテストでレベル1，2の学生に限定する。
学生へのメッセージ	この授業自体が異文化コミュニケーションとなるよう、授業への積極的な参加を求めます。

授業科目名	多文化共修科目 E：多文化共生と日本語教育
担当教員	許 夏玲（ふい はーりん）
ねらいと目標	日本は多文化共生社会になっていると言われます。多文化共生の観点から日本語教育をどのように捉えるか、また日本語教育の分野で比較的に関心のあるテーマをいくつか取り上げて、多文化共生とどのように関わっているかについて考えます。そこで、日本語母語話者および外国人学習者の言語行動の対照・比較を通して、先行研究および様々な事例に基づいて、両言語使用者の言語的特徴や文化背景、習慣などの共通点および相違点について論じます。
内容	以下のテーマに関連した先行研究および事例を紹介し、多文化共生の中の日本語教育への認識を深めるとともに、今後の課題について検討します。学期末のグループワークでは、多文化共生や日本語教育などに関連した研究課題を各グループで設定して取り組み、その成果を発表します。
テキスト	特に指定しません。
参考文献	授業中、随時紹介します。
成績評価法	平常点（出席、授業への参画状況、授業態度）60%、発表 20%、研究レポート 20%
授業スケジュール	1. 本授業の目的と方法—多文化共生と日本語教育 2. 文体 3. 言語能力と運用能力 4. 誤用研究 5. メタ言語 6. オノマトペ 7. 言語転移 8. 若者言葉 9. 日本企業と外国人 10. ファシリテーション 11. 日本語学習支援 12. 地域の日本語ボランティア教室 13. グループワーク（研究課題の発表）I 14. グループワーク（研究課題の発表）II *授業予定は受講状況により多少変更する場合があります。
授業時間外における学習方法	授業時間外では、参考資料等を読んだり、WebClass を用いて意見交換をしたりすることが求められます。
授業のキーワード	多文化共生、日本語母語話者、日本語教育、外国人生活者、日本語学習者、言語行動
受講補足（履修制限など）	留学生の場合は、日本語 1 と日本語 2 のレベルの方の受講が望ましいです。
学生へのメッセージ	日本語教育や国際交流に関心のある学生の受講は歓迎します。